

詩篇67篇より

指揮者のために。弦楽器によって。賛歌。歌

- 1 どうか、神が私たちをあわれみ、祝福し、御顔を私たちの上に照り輝かしてくださるように。セラ
- 2 それは、あなたの道が地の上に、あなたの御救いがすべての国々の間に知られるためです。
- 3 神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように。
- 4 国民が喜び、また、喜び歌いますように。それはあなたが公正をもって国々の民をさばかれ、地の国民を導かれるからです。セラ
- 5 神よ。国々の民があなたをほめたたえ、国々の民がこぞってあなたをほめたたえますように。
- 6 地はその産物を出しました。神、私たちの神が、私たちを祝福してくださいますように。
- 7 神が私たちを祝福してくださって、地の果て果てが、ことごとく神を恐れますように。

本篇は特に短い詩篇の一つに数えられます。しかし、短いながらもその内容は大きなスケールを持っています。特徴的に現れる「すべての国々」(2節)、「国々の民」(3節、4節、5節)、「国民」(4節)、「地の国民」(4節)、「地の果て果て」(7節)という言葉は、「異邦の民」「諸外国」「全世界の民」といった意味を含んでいます。尤も、原文を調べてみると、^{もっと}これらの似た表現も、「ゴーイ」(2節)、「アム」(3節、4節、5節)、「レオーム」(4節)といった言葉の使い分けがあることが分かるのですが。いずれにせよ詩人の念頭には世界宣教のビジョンがあり、イスラエルから神の祝福が全世界に発信されていくことをイメージしています。

詩人はまず、イスラエルの祝福を神に求めます(1節)。神の祝福を取り次ぐ器とされた民族としてのイスラエル。この約束は、古くアブラハム契約にまで遡るでしょう。

主はアブラムに言われた。「あなたは生まれた地と親族、父の家を離れ私が示す地に行きなさい。私はあなたを大いなる国民とし、祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福の基となる。あなたを祝福する人を私は祝福しあなたを呪う人を私は呪う。地上のすべての氏族はあなたによって祝福される。」(創世記12:1-3)

イスラエル民族の父として立てられたアブラハムは、将来彼の子孫がおびただしく増え、全世界の祝福の基となると約束を受けたのでした。その約束を受け継いだアロンの祭司的祝福の言葉にもふれておきます。

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。主が御顔の光であなたを照らし、あなたに恵みを与えられるように。主が御顔をあなたに向けて、あなたに平和を賜るように。(民数6:24-26)

私たちは「祝福」という言葉をよく使いますが、その実体が何であるかを言葉で説明する必要があります。それは、敢えて大別すると、第一に神がお与えになる罪の赦しであり、第二に日常生活に必要なすべてのものが満たされることです。神の民がこれらの祝福を豊かに受けているのを見て、諸国の民も祝福の源なる神を知り、この神を畏れ敬うようにな

る。宣教にも二つの側面があります。第一は実際に出て行って福音のメッセージを語り伝えること、第二は「祝福を受けた者」としての人生そのものが周囲の人々の目に留まることによって、それ自体が宣教となるのです。

「セラ」という言葉が本篇中に2回出てきますが、これは詩篇に音楽を付けて歌った際の区切りだったのではないかとされています。仮にそうだったとすると、1節を読み上げて直ちに区切られるのは随分早いタイミングだと思われませんか。ここには意図があり、まず祝福のエネルギーを溜め、2節以下で一挙に全世界に向けて放出するイメージがあります。神の宣教の順序は常に、まずイスラエルの祝福があり、そこから世界に向けて発信される。主イエスもスロ・フェニキヤの女に言われました。

イエスは、「私は、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていない」とお答えになった。(マタイ15:21)

主はここで異邦人を心に留めておられないのではなく、祝福には順序があるとおっしゃっているのです。主が世を去られるときにはこのように言うておられます。

ただ、あなたがたの上に聖霊が降ると、あなたがたは力を受ける。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となる。(使徒1:8)

神の祝福が及ぶところには、神の正しい裁きもたらされます。「それはあなたが公正をもって国々の民をさばかれ、地の国民を導かれるからです」(4節)。「さばき」とは、罰することではなく、神の支配が及ぶことを意味します。貧しい者、虐げられている者、寄る辺のない者を神が顧みてくださる。正義と公正がそこに現れるのです。

6～7節には、「農耕」に関する描写が出てきます。「地の産物」が神からの祝福として呈示されている。農業においては、小さな種から多くの穀物、野菜、果物が生じます。それと同様に、イスラエル民族は少数ではありますが、全世界の祝福の基となるのです。

キリスト者とされた者は、イエス・キリストの祝福を世界にもたらす器とされています。日本のクリスチャン人口は1%に満たないと言われてはいますが、気落ちしてはなりません。この少人数を用いて、神はこの国に祝福をもたらそうとしてくださっているからです。ギデオンがミデヤン人の大軍と戦うに際して、神が残された兵士の数はわずか300人でした(士師7:6)。神は小さな群を用いて大きな御業をなすことができになります。私達もキリストの兵士として召された誇りを胸に、世に祝福をもたらす者として力強く歩んでいきたいと思えます。